

小学校だより

2019年
3学期号
2019.3.16

Vol.
141

INTERVIEW

校長先生が
市岡先生、二村先生、橋本先生へ
質問してみました

梶小の音楽教育



音楽講師
橋本 千波先生 二村 雅子先生 市岡 みゆき先生

校長 森 和久

本年度より、梶小では音楽の講師として市岡みゆき先生、二村雅子先生、橋本千波先生(五十音順)をお迎えしました。今年度は、名フィルとの共演コンサートもあり三人の先生にはさっそく大活躍をさせていただいています。そんな先生方にインタビューしました。

Q 音楽を学ぶことになったきっかけを教えてください。

市岡先生

四歳のときからピアノを習い始めたことで音楽が得意になり、中学で合唱を始めました。それをきっかけに、教えることも学びたいと思うようになりました。

二村先生

中学一年生でオーケストラ部に入り、毎日四十人ほどの仲間と、一つの曲をつくりあげていく楽しさを知ったことがきっかけです。

橋本先生

小さいころからピアノやバイオリンを習っていましたが、高校二年のときに、ミュージカル「キャッツ」を観て、やってみたい!!と思ひ、

特集

百人一首かるた大会

委員会報告

P.4

学年トピックス

学期の行事

P.5

P.6
P.17

PTA

P.18
P.19

P.2
P.3

三学期の思い出

P.20

音楽大学の音楽科で勉強しました。

その後橋本先生は実際に「劇団四季」に入られたんですね。

Q 音楽の素晴らしさを実感されたことは多いと思いますが、何か一つエピソードを教えてください。

二村先生

教師になって六年生を担当していたとき、家族の事故や病氣、自身の耳の手術などよくないことが続く女の子がいましたが、ピアノレッスンや音楽の授業を支えに、「私には音楽がある」と明るく乗り越えていきました。その姿に感動しました。

橋本先生

音が聞こえにくい子を音楽の授業で担当しました。その子は、私や友達の手や指の動きを見てタイミングを合わせたり、CDプレーヤーに耳を近づけて振動を感じ取ったりしながら、一生懸命に歌やリコーダーの練習をしていました。最後の授業のときに「先生やみんなが笑っていたから音楽が楽しかったです」という手紙をもらったとき、「聞こえなければ音楽は楽しくない」と思っていたことを恥ずかしく思いました。

市岡先生

一つの合唱曲を多くの人と合わせて仕上げていくとき、音楽の楽しさ、素晴らしさを実感します。合唱団で新しい曲に取り組むとき、梶小でピアノの周りに子どもを集めて練習に取り組んでいるとき、「楽しい」と感じます。



▲中学年授業風景



▲高学年授業風景

Q 音楽教育で大切にしていることを一言で表してください。

橋本先生 「心の解放」です。

市岡先生 「楽しさを感じる」です。

二村先生 「表現する楽しさ」です。

Q 梶小の子どもたちの印象を教えてください。

市岡先生

「人懐こくて明るい」「何事にもまじめに取り組む」「たくさん文章が書ける」という印象です。

橋本先生

素直!!素直!!素直!!とても明るくて素直。かわいいです!

二村先生

みんなで声を掛け合って一つのことをがんばってつくりあげようとする印象です。

Q 名フィル共演コンサートに向けて力を入れたことはどんなことですか。

二村先生

本番までに一人一人が最高の力を出し切って、満足感を味わえるようにしていけたらと思っています。

市岡先生

みんなの声をよく聴くこと、お客様に向かって声を届けることを心がけています。

橋本先生

素晴らしい指揮者の田中祐子さん、名フィルの皆さんと大きなホールで共演できるなんて、望んでもかなわない貴重な機会です。舞台からの景色など、それぞれが感じたことは一生の財産になると思います。その機会を与えてくださった皆さんの方々に感謝しながら、自信を持って本番を迎えたいです。



▲低学年コンサート練習